

## 東京都計量器コンサルタント協会

### 設立当初の思い出

本会名誉会長(第1期生) 鴨下嘉市



昭和46年は計量法公布20周年にあたり全国各地で記念行事が開催されていたが、翌47年7月12日に東北・北海道計量大会が札幌市で開催され、次の注目すべき大会宣言が報じられた。

「適正な計量の実現を通じて国民経済の発展と文化の向上に寄与することは、われわれ先人以来の念願である。われわれは、計量が社会に占める役割と計量人が担う使命をさらに一段と認識して豊かで快適な生活という目標のもとに、優良計量器の供給とその適切な使用を図るため、われわれのもつ

知識と技術と組織を活用して、その力を最大限に発揮するとともに、**よき計量器コンサルタント**として社会への奉仕に最善を尽くさなければならない。」

当時、(社)東京都計量協会では販売者部会の席上で、同じような使命感から計量器コンサルタントの制度化について活発な議論が行われ、全国計量器販売者連合会と(社)日本計量協会に上申してその実現方を要望したと聞いている。

程なく、(社)日本計量協会は計量行政機関等との調整を経て決定し、計量器コンサルタント研修会実施要綱が届けられ、(社)東京都計量協会は別項カリキュラムによる第1回研修会を開催し、60名を超える受講申込みが殺到して大きな反響を呼んだ。

研修会は午後6時から9時までの3時間コースで10日間行われ、受講生にはさすがに疲れの表情が見られたが、真の計量器コンサルタントを目指すためには今後一層の研鑽努力が必要という自覚と10日間席を並べて学んだ仲間とこのまま別れてしまうことの惜別感などから、だれかれともなく会の設立を要望する声があがり、当時、都計協の副会長で計量器コンサルタント研修に熱心に取り組んでおられた大原和三郎さん、常務理事の小川直久さんなどと銀座のピアホールで会の立ち上げを話題にビールの杯を酌み交わした記憶が蘇ってくる。

これらの声を背景に年が明けてから小川直久さん、座間勝美さん、大木史郎さん、原敏夫さん、野村光作さん、川合保之さんが設立発起人として会合をもち、事務局員で第1期生でもある木原君を交えて会則、会費、初年度事業計画、収支予算案などのたたき台を作成したと聞いている。

設立総会は、昭和48年2月7日に日本計量会館会議室で第1期生45名が出席して開催され、発起人提案の原案がすべて承認、可決され、ここに大きな気概をもって「東

京都計量器コンサルタント協会」が船出した。

あれからすでに30年が経過し、大勢の仲間を迎えて記念事業が多彩に行われることは誠に感無量である。